



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2010 推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

「安全で安心な介護保障制度の実現を」介護ウェーブ署名 56,406筆を提出

「4・14国会集中行動」に18県連から79名の参加（2010年4月14日）

全日本民医連主催「4・14国会集中行動」が19県連から79名、関係者も含めて90名の参加で開催されました。介護職員も長野や大阪などから多数参加し、衆議院・参議院の厚生労働委員、参加者の地元選出議員を中心に要請行動を行いました。今回の国会集中行動は、「後期高齢者医療制度の廃止」と「介護保険制度の抜本改善」を求める共同した請願行動として位置づけての開催です。

多くの国会議員に介護改善要求を働きかけていくことが必要

介護・福祉部からの挨拶で林泰則事務局次長は、5年に一度を目処に実施される介護保険法改定を巡る国の動きについて、「介護保険法附則第4条に、『10年ごとの見直し』が明記されており、今後、改定に向けて、2010年に改定法案の議論が開始され、2011年に改定法案が国会に上程、可決・成立、2012年に改定法施行となることが予測される」と解説し、これから約2年間の介護ウェーブの取り組みが重要な時期になると強調しました。その上で、民主党を中心とする連立政権に、「今後、どのような法案を準備させるのか、国会へ上程後の対応、改定法成立後の対応の3段階のたたかいが大きな課題になり、多くの国会議員に介護改善要求を働きかけていくことが必要である」と、これから約2年間のたたかいの視点が示されました。



介護特別チームを結成し、民主党「介護を考える議員連盟」役員を中心に要請行動



議員要請行動は、「介護特別チーム」2班を結成し、民主党「介護を考える議員連盟」役員6名の議員に、「介護保険制度の抜本改善を求める」請願を行いました。

秋田京子さん（長野・特養あづみの里）を中心とするチームは3名の議員を訪問し、各議員の秘書が対応しました。初鹿明博議員（衆議・東京16区）「こちらの訴えをしっかりと聞いてくれた。介護の現場のこと、職位の事など話ができた」、園田康博議員（衆議・岐阜3区）「秘書の方が通りいっぺんに話を聞いてくれたのみで、少し物足りなかった」、山崎摩耶議員（衆議・北海道比例）「秘書の方も介護保険の事に知識があるようで、こちらの話

に対して、思いもいってくれてありがたかった」等の感想が出されました。

月見英明さん（大阪民医連事務局）を中心とするチームも、3名の議員を訪問し、各議員秘書が対応しました。梅村聰議員（参議・大阪）「残念ながら会議中で議員に会うことができず、秘書に私たちの声をお願いした」、下田淳子議員（参議・比例）「来客中で議員は出てこられず、秘書にお願いした」、大河原雅子議員（参議・東京）「議員は不在、秘書は良く話を聞いてくれた」等の感想がだされ、行動を通して、「共産党以外の議員には一度も会ったことがないので、こういった行動で全ての議員に話を聞いてもらえる日がくるように、これからも参加していきたい」と決意も寄せられました。

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp